

F C T 35周年企画・第15回メディア・リテラシー研修セミナー報告 「インターネット社会とメディア・リテラシー」

2012年8月18日（土）～8月19日（日）の日程で、県立かなかがわ女性センター会議室において、恒例の研修セミナーを開催しました。

参加者は、首都圏を中心に秋田県、鳥取県、大阪府、京都府、長野県などから集まり、所属は中学・大学教員、大学生・大学院生、NPO関係者、市民活動家、研究者、メディア制作者などでした。このように多様な参加者によるセミナーは、今後、各地域での学校教育、および生涯学習の場において、メディア・リテラシーの実践に即、繋がる事業であると確信しています。

今回のセミナーでは、携帯電話の多機能化にともない、インターネット接続が急速に増加しているメディア環境を意識化し、「インターネット社会」として捉え、その意味を考え、参加者とともに、分析をおこなっています。ワークショップを各セッションに取り入れ、参加と対話によりメディア・リテラシーの獲得を目指すものです。

さらに、19日午後には、F C T 35周年記念オープン・フォーラム「メディア・リテラシーと子ども・若い人びとのエンパワーメント～カナダの実践者との対話から～」を開催しました。ゲスト・スピーカーとしてカナダ・オンタリオ州のメディア・リテラシー教育および映画教育教員のアリソン・マン先生をお招きし、[メディア・リテラシーの授業実践報告](#)および、参加者による雑誌広告の授業体験ワークショップ、参加者との意見交換などをおこないました。

セミナーでは、セッション1でメディア・リテラシーとは何かを、『新版 Study Guide メディア・リテラシー入門編』をもとに学びました。

セッション2では、子ども時代の「私とメディアの関係」を記入シートに各自が書き込んだ後、グループで「私たちとメディア」のかかわりについて話し合い、メディアは社会的なものであることを確認するとともに、メディアの意識化を図ることにつなげるセッションでした。

セッション3では、スマートフォンCM2本を分析するなかで映像言語を学び、さらにターゲット・オーディアンスやCMの伝える価値観について話し合いました。

セッション4では、メディアが構成する「現実」の分析で、2012年6月29日TBS系『ニュース23』より、原発再稼動反対の市民の動きを総理官邸前から伝えるトピックをテクストにしています。

セッション5では、『Yahoo！ニュース』をテクストに、オンラインで分析をおこないました。メディア・リテラシーの三角形分析モデルに当てはめてSNSの特徴を考え、さらに、オーディアンスに着目して分析をしました。

参加者から「私たちは日々インターネットを使っていますが、そのツールについての“リテラシー”はまだまだ不足していると感じます。特に若年層のネット利用については、毒にも薬にもなるという二面性を抱えていると思います。より具体的な取り組みについて、来年度以降もゼミナーに加えていただけたらと希望します」との声も寄せられました。

ファシリテーター：西村寿子・田島知之・森本洋介・新開清子（記録）